

1 素材需給の動向

(1) 素材需要量

令和元年の素材需要量は2,634万8千m³で、前年に比べ19万7千m³（0.7%）減少した。

これを需要部門別にみると、製材用は1,663万7千m³で、前年に比べ3万5千m³（0.2%）、木材チップ用は426万3千m³で、32万3千m³（7.0%）それぞれ減少したものの、合板等用は544万8千m³で、16万1千m³（3.0%）増加した。

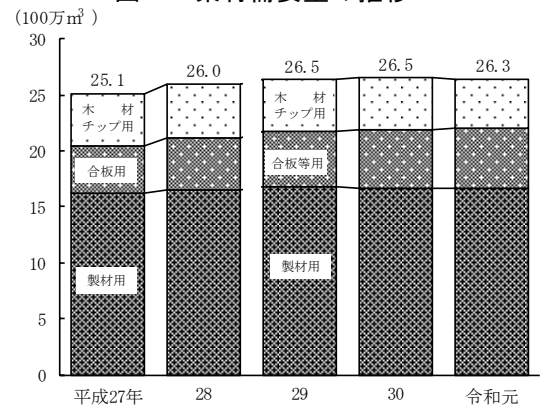
この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が63.1%、合板等用が20.7%、木材チップ用が16.2%となった（表1、図1）。

表1 需要部門別素材需要量

区 分	計	製材用	合板等用	単位：千m ³	
				木 材	チ ッ プ 用
平成30年	26,545	16,672	5,287	4,586	
令和元	26,348	16,637	5,448	4,263	
対前年比（%）	99.3	99.8	103.0	93.0	
構 成 比（%）					
平成30年	100.0	62.8	19.9	17.3	
令和元	100.0	63.1	20.7	16.2	

注：1 素材需要量とは、製材工場、合単板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量である。
2 数値については、四捨五入のため、合計と内訳の計が一致しない場合がある（以下の表において同じ。）。

図1 素材需要量の推移



注：平成29年調査から、素材需要量のうち「合板用」を新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更したため継続しない（以下の図において同じ。）。

(2) 素材供給量

素材供給量のうち、国産材は2,188万3千m³で、前年に比べ24万3千m³（1.1%）増加し、輸入材は446万5千m³で、44万m³（9.0%）減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は83.1%で、前年に比べ1.6ポイント上昇した（表2、図2）。

図2 素材供給量及び国産材供給割合の推移

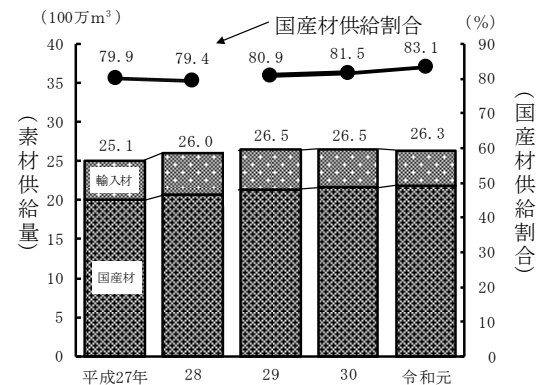


表2 需要部門別、材種別素材供給量

区 分	計	国 産 材			輸 入 材						単位：千m ³
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他	
平成30年											
計	26,545	21,640	19,462	2,178	4,905	175	3,746	359	440	185	
製 材 用	16,672	12,563	12,421	142	4,109	43	3,224	243	415	184	
合 板 等 用	5,287	4,492	4,472	20	795	132	522	116	24	1	
木 材 チ ッ プ 用	4,586	4,585	2,569	2,016	1	-	-	0	1	-	
令和元年											
計	26,348	21,883	19,876	2,007	4,465	164	3,423	321	393	164	
製 材 用	16,637	12,875	12,755	120	3,762	x	2,961	230	364	x	
合 板 等 用	5,448	4,745	4,724	21	703	x	462	91	29	x	
木 材 チ ッ プ 用	4,263	4,263	2,397	1,866	0	-	-	0	0	-	
対前年比（%）											
計	99.3	101.1	102.1	92.1	91.0	93.7	91.4	89.4	89.3	88.6	
製 材 用	99.8	102.5	102.7	84.5	91.6	x	91.8	94.7	87.7	x	
合 板 等 用	103.0	105.6	105.6	105.0	88.4	x	88.5	78.4	120.8	x	
木 材 チ ッ プ 用	93.0	93.0	93.3	92.6	0.0	nc	nc	nc	0.0	nc	
構成比（%）											
計	100.0	83.1	75.4	7.6	16.9	0.6	13.0	1.2	1.5	0.6	
製 材 用	100.0	77.4	76.7	0.7	22.6	x	17.8	1.4	2.2	x	
合 板 等 用	100.0	87.1	86.7	0.4	12.9	x	8.5	1.7	0.5	x	
木 材 チ ッ プ 用	100.0	100.0	56.2	43.8	0.0	-	-	0.0	0.0	-	

注：1 素材供給量とは、素材需要量（製材工場、合単板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量）をもって供給量としている。
2 構成比は、表示単位未満を四捨五入しているため、内訳と計が一致しない場合がある。（以下の表において同じ。）

ア 国産材供給量

国産材供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,987 万6千m³で、前年に比べ41 万4千m³（2.1%）増加した。

これを樹種別にみると、素材供給量の6割弱を占めるすぎは1,273 万6千m³で、前年に比べ20 万4千m³（1.6%）、ひのきは296 万6千m³で、19 万5千m³（7.0%）、えぞまつ・とどまつは118 万8千m³で、7 万4千m³（6.6%）それぞれ増加したものの、からまつは221 万7千m³で、3 万5千m³（1.6%）、あかまつ・くろまつは60 万1千m³で、2 万7千m³（4.3%）それぞれ減少した。

また、広葉樹は200 万7千m³で、前年に比べ17 万1千m³（7.9%）減少した（表3、図3）。

図3 樹種別素材供給量の推移

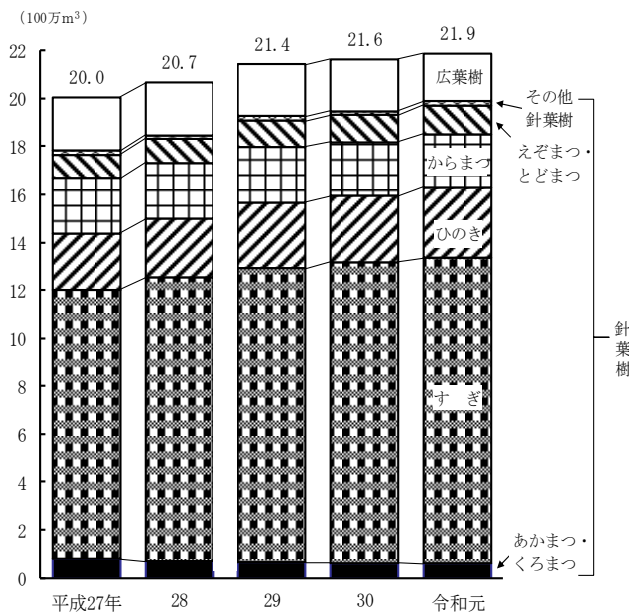


表3 需要部門別、樹種別素材供給量

単位：千m ³									
区 分	計	針 葉 樹							広葉樹
		小 計	あかまつ・くろまつ	す ぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成30年									
計	21,640	19,462	628	12,532	2,771	2,252	1,114	165	2,178
製 材 用	12,563	12,421	156	8,237	2,159	1,106	701	62	142
合 板 等 用	4,492	4,472	189	2,851	360	803	242	27	20
木 材チップ [※] 用	4,585	2,569	283	1,444	252	343	171	76	2,016
令和元年									
計	21,883	19,876	601	12,736	2,966	2,217	1,188	168	2,007
製 材 用	12,875	12,755	145	8,582	2,189	1,034	737	68	120
合 板 等 用	4,745	4,724	194	2,889	486	847	287	21	21
木 材チップ [※] 用	4,263	2,397	262	1,265	291	336	164	79	1,866
対前年比(%)									
計	101.1	102.1	95.7	101.6	107.0	98.4	106.6	101.8	92.1
製 材 用	102.5	102.7	92.9	104.2	101.4	93.5	105.1	109.7	84.5
合 板 等 用	105.6	105.6	102.6	101.3	135.0	105.5	118.6	77.8	105.0
木 材チップ [※] 用	93.0	93.3	92.6	87.6	115.5	98.0	95.9	103.9	92.6
構成比(%)									
計	100.0	90.8	2.7	58.2	13.6	10.1	5.4	0.8	9.2
製 材 用	100.0	99.1	1.1	66.7	17.0	8.0	5.7	0.5	0.9
合 板 等 用	100.0	99.6	4.1	60.9	10.2	17.9	6.0	0.4	0.4
木 材チップ [※] 用	100.0	56.2	6.1	29.7	6.8	7.9	3.8	1.9	43.8

注：素材供給量とは、国産材である素材についてその入荷元である都道府県で生産されたものとして各都道府県値を集計し、全国値については都道府県計値の積算により算出した結果である。

イ 輸入材供給量

輸入材供給量を産地材別にみると、南洋材は 16 万 4 千 m^3 で、前年に比べ 1 万 1 千 m^3 （6.3%）、輸入材の 8 割弱を占める米材は 342 万 3 千 m^3 で、32 万 3 千 m^3 （8.6%）、北洋材は 32 万 1 千 m^3 で、3 万 8 千 m^3 （10.6%）、ニュージーランド材は 39 万 3 千 m^3 で、4 万 7 千 m^3 （10.7%）それぞれ減少した。

また、製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量は 36 万 3 千 m^3 で、前年に比べ 1 万 9 千 m^3 （5.0%）減少した（表 4、表 5、図 4）。

図 4 輸入材供給量の推移

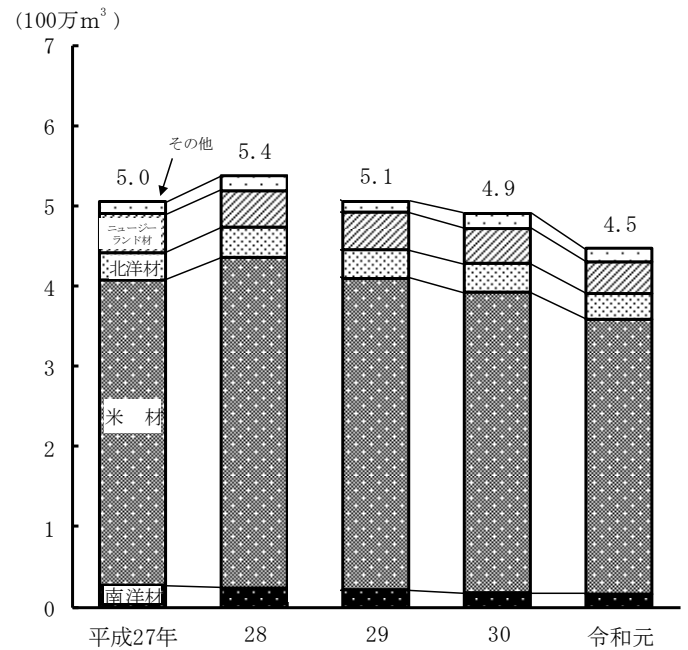


表 4 輸入材供給量

単位：千 m^3						
区 分	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成30年	4,905	175	3,746	359	440	185
令和元	4,465	164	3,423	321	393	164
対前年比 (%)	91.0	93.7	91.4	89.4	89.3	88.6
構 成 比 (%)						
平成30年	100.0	3.6	76.4	7.3	9.0	3.8
令和元	100.0	3.7	76.7	7.2	8.8	3.7

表 5 製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量

単位：千 m^3						
区 分	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成30年	382	3	88	151	28	112
令和元	363	4	65	161	17	116
対前年比 (%)	95.0	133.3	73.9	106.6	60.7	103.6
構 成 比 (%)						
平成30年	100.0	0.8	23.0	39.5	7.3	29.3
令和元	100.0	1.1	17.9	44.4	4.7	32.0

2 木材産業の動向

(1) 製材

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は4,382工場で、前年に比べ200工場（4.4%）減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の階層で増加し、それ以外の階層では減少した。

製材用動力の総出力数は61万9,400kWで、前年に比べ5,578kW（0.9%）減少した。

1工場当たりの出力数は141.4kWで、前年に比べ5.0kW（3.7%）増加した（表6、図5）。

表6 製材工場数及び製材用動力の出力数

区 分	単位	平成30年	令和元	対前年比	構成比
				%	%
工場数計	工場	4,582	4,382	95.6	100.0
7.5～75.0kW未満	〃	2,750	2,583	93.9	58.9
75.0～300.0	〃	1,405	1,370	97.5	31.3
300.0kW以上	〃	427	429	100.5	9.8
うち1,000.0kW以上	〃	71	73	102.8	1.7
総出力数	kW	624,978	619,400	99.1	-
1工場当たり出力数	〃	136.4	141.4	103.7	-

イ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は1,644万m³で、前年に比べ20万5千m³（1.2%）減少した。1工場当たりの素材消費量は3,752m³で、前年に比べ119m³（3.3%）増加した（表7、図6）。

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

区 分	単位	平成30年	令和元	対前年比	構成比
				%	%
計	千m ³	16,645	16,440	98.8	100.0
7.5～75.0kW未満	〃	965	966	100.1	5.9
75.0～300.0	〃	3,528	3,503	99.3	21.3
300.0kW以上	〃	12,152	11,971	98.5	72.8
うち1,000.0kW以上	〃	6,943	7,156	103.1	43.5
1工場当たり消費量	m ³	3,633	3,752	103.3	-

図5 製材工場の出力階層別構成割合

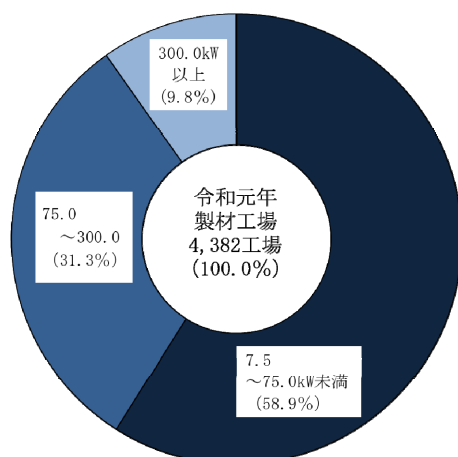
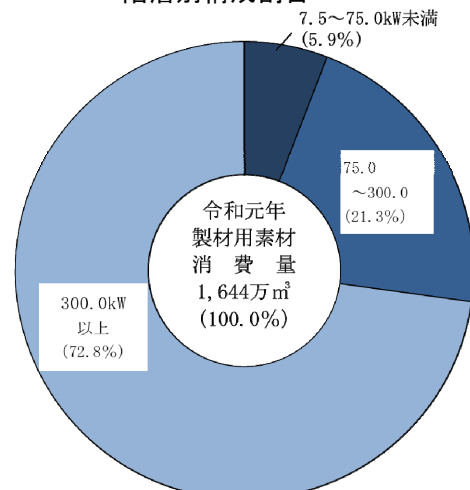


図6 製材用素材消費量の出力階層別構成割合



ウ 製材用素材入荷量

(ア) 製材用素材入荷量は、1,663 万 7 千 m³で、前年に比べ 3 万 5 千 m³ (0.2%) 減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材の入荷量は 1,287 万 5 千 m³で、前年に比べ 31 万 2 千 m³ (2.5%) 増加し、輸入材の入荷量は 376 万 2 千 m³で、34 万 7 千 m³ (8.4%) 減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は 77.4%で、前年を 2.0 ポイント上回った（表 8、図 7）。

図 7 製材用素材入荷量及び国産材割合の推移

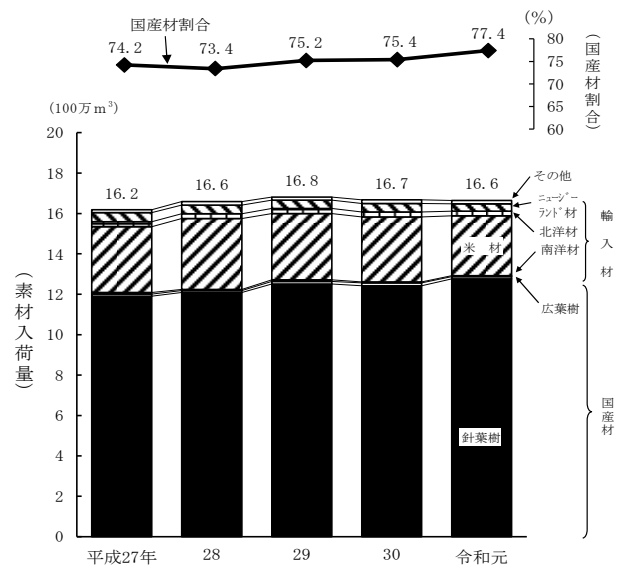


表 8 材種別製材用素材入荷量

単位：千 m³

年 次	計	国 産 材			輸 入 材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージールランド材	その他
平成30年	16,672	12,563	12,421	142	4,109	43	3,224	243	415	184
令和元	16,637	12,875	12,755	120	3,762	x	2,961	230	364	x
対前年比 (%)	99.8	102.5	102.7	84.5	91.6	x	91.8	94.7	87.7	x
構 成 比 (%)										
平成30年	100.0	75.4	74.5	0.9	24.6	0.3	19.3	1.5	2.5	1.1
令和元	100.0	77.4	76.7	0.7	22.6	x	17.8	1.4	2.2	x

(イ) 素材の入荷があった製材工場は 4,340 工場で、前年に比べ 211 工場 (4.6%) 減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは 3,358 工場で、前年に比べ 163 工場 (4.6%)、国産材と輸入材は 771 工場で、21 工場 (2.7%)、輸入材のみは 211 工場で、27 工場 (11.3%) それぞれ減少した。

入荷量でみると、輸入材のみは 194 万 9 千 m³で、前年に比べ 36 万 9 千 m³ (15.9%) 減少したものの、国産材と輸入材は 279 万 8 千 m³、国産材のみは 1,189 万 m³で、前年に比べそれぞれ 7 万 2 千 m³ (2.6%)、26 万 2 千 m³ (2.3%) 増加した（表 9）。

表 9 製材用動力の入荷類型別製材工場数及び入荷量

単位：千 m³

年 次	計		国産材のみ		国産材と輸入材		輸入材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成30年	4,551	16,672	3,521	11,628	792	2,726	238	2,318
令和元	4,340	16,637	3,358	11,890	771	2,798	211	1,949
対前年比 (%)	95.4	99.8	95.4	102.3	97.3	102.6	88.7	84.1
構 成 比 (%)								
平成30年	100.0	100.0	77.4	69.7	17.4	16.4	5.2	13.9
令和元	100.0	100.0	77.4	71.5	17.8	16.8	4.9	11.7

注：工場数は、平成30年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材品出荷量

製材品出荷量は903万2千 m^3 で、前年に比べ17万 m^3 （1.8%）減少した。

これを用途別にみると、土木建設用材は44万5千 m^3 で、前年に比べ6万9千 m^3 （18.4%）増加したものの、8割強を占める建築用材は726万9千 m^3 で、19万9千 m^3 （2.7%）、木箱仕組板・こん包用材は112万2千 m^3 で、3千 m^3 （0.3%）それぞれ減少した。

また、人工乾燥材出荷量は418万7千 m^3 で、前年に比べ25万7千 m^3 （6.5%）増加した。

製材品の出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は46.4%で、前年を3.7ポイント上回った（表10、図8、図9）。

図8 用途別製材品出荷量の推移

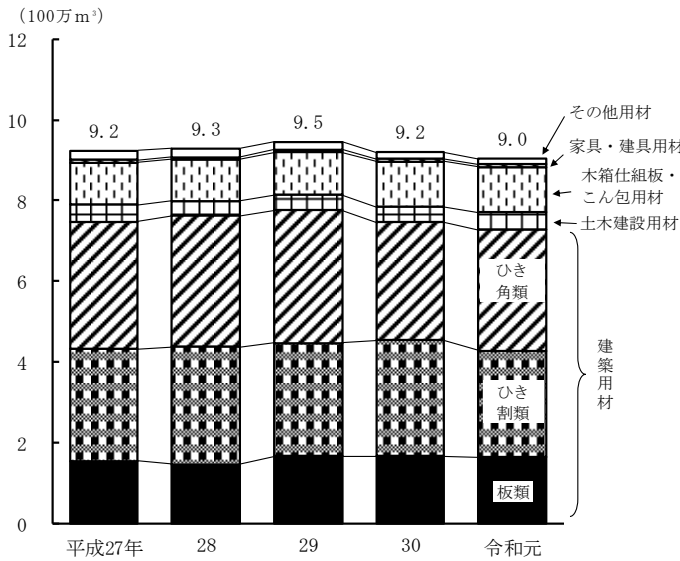


図9 人工乾燥材出荷量及び製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合の推移

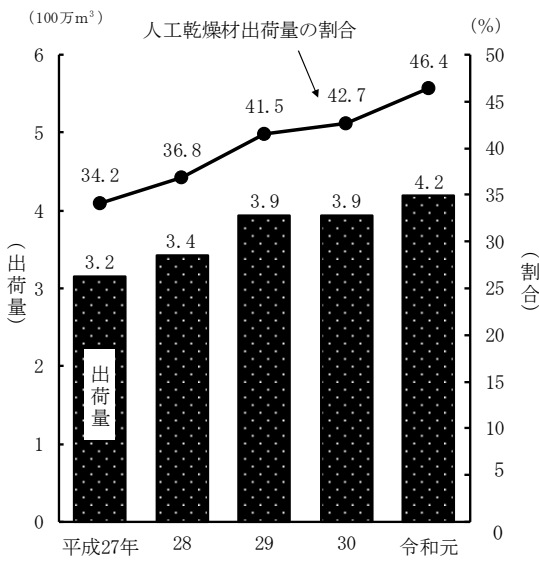


表10 用途別製材品出荷量

単位：千 m^3										
年次	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具建具用材	その他材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成30年	9,202	3,930	7,468	1,674	2,876	2,918	376	1,125	61	172
令和元	9,032	4,187	7,269	1,650	2,637	2,982	445	1,122	56	140
対前年比 (%)	98.2	106.5	97.3	98.6	91.7	102.2	118.4	99.7	91.8	81.4
構成比 (%)										
平成30年	100.0	42.7	81.2	18.2	31.3	31.7	4.1	12.2	0.7	1.9
令和元	100.0	46.4	80.5	18.3	29.2	33.0	4.9	12.4	0.6	1.6

(2) 合単板及びLVL

ア 合単板工場数

合単板工場数は176工場で、前年に比べ4工場（2.2%）減少した。

これを工場類型別にみると、「特殊合板のみ」を生産している工場は130工場で、前年に比べ6工場（4.4%）減少した。「単板のみ」を生産している工場は12工場で、前年に比べ2工場（20.0%）増加した。「普通合板のみ」を生産している工場は33工場、「普通合板と特殊合板」を生産している工場は1工場で、それぞれ前年並みであった（表11）。

表 11 工場類型別合単板工場数（各年 12 月 31 日現在）

単位：工場					
区 分	計	単 板 の み	普通合板のみ	普通合板と 特 殊 合 板	特殊合板のみ
平成30年	180	10	33	1	136
令和元	176	12	33	1	130
対前年比（%）	97.8	120.0	100.0	100.0	95.6
構 成 比（%）					
平成30年	100.0	5.6	18.3	0.6	75.6
令和元	100.0	6.8	18.8	0.6	73.9

イ 単板製造用素材入荷量

単板製造用素材の入荷量は544万8千m³で、前年に比べ16万1千m³（3.0%）増加した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材は474万5千m³で、前年に比べ25万3千m³（5.6%）増加したものの、輸入材は70万3千m³で9万2千m³（11.6%）減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は87.1%で、前年を2.1ポイント上回った（表12、図10）。

図 10 単板製造用素材入荷量及び
国産材割合の推移

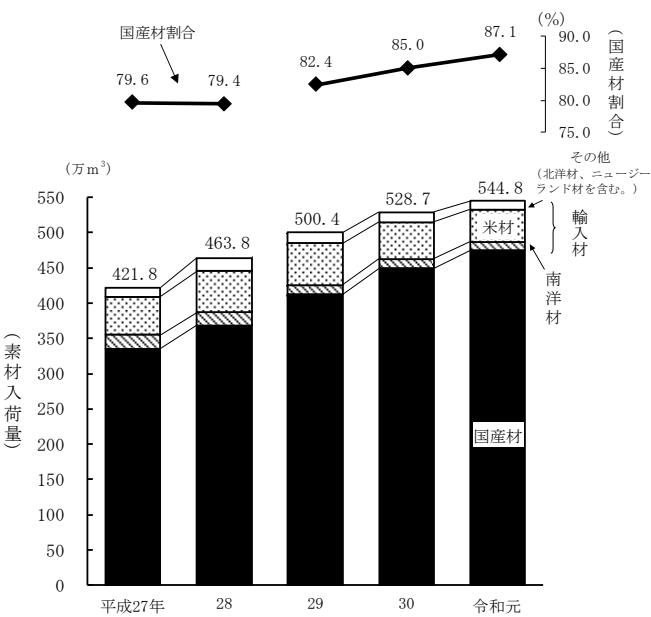


表 12 材種別単板製造用素材入荷量

単位：千m ³											
年 次	計	国 産 材			輸 入 材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	米材	北洋材	ニュー ジラ ンド材	その他
平成30年	5,287	4,492	4,472	20	795	658	132	522	116	24	1
令和元	5,448	4,745	4,724	21	703	542	x	462	91	29	x
対前年比（%）	103.0	105.6	105.6	105.0	88.4	82.4	x	88.5	78.4	120.8	x
構 成 比（%）											
平成30年	100.0	85.0	84.6	0.4	15.0	12.4	2.5	9.9	2.2	0.5	0.0
令和元	100.0	87.1	86.7	0.4	12.9	9.9	x	8.5	1.7	0.5	x

ウ 単板消費量

単板消費量は 399 万 4 千 m³で、前年に比べ 9 万 3 千 m³ (2.4%) 増加した。

これを用途別にみると合板用が 373 万 1 千 m³で、前年に比べ 9 万 1 千 m³ (2.5%)、L V L 用が 26 万 3 千 m³で、前年に比べ 2 千 m³ (0.8%) それぞれ増加した (表 13)。

表 13 単板消費量

区 分	単位：千 m ³		
	計	合板用	L V L 用
平成30年	3,901	3,640	261
令和元	3,994	3,731	263
対前年比 (%)	102.4	102.5	100.8
構 成 比 (%)			
平成30年	100.0	93.3	6.7
令和元	100.0	93.4	6.6

エ 普通合板生産量

普通合板生産量は 333 万 7 千 m³で、前年に比べ 3 万 9 千 m³ (1.2%) 増加した。

このうち、針葉樹合板生産量は 321 万 2 千 m³で、前年に比べ 6 万 2 千 m³ (2.0%) 増加した。

また、厚さ別にみると、「6 mm未満」は 6 万 m³で、前年に比べ 1 万 m³ (14.3%)、「12～24mm」は 152 万 4 千 m³で、1 万 1 千 m³ (0.7%) それぞれ減少したものの、「6～12mm」は 50 万 m³で、4 万 2 千 m³ (9.2%)、「24 mm以上」は 125 万 3 千 m³で、1 万 8 千 m³ (1.5%) それぞれ増加した (表 14、図 11)。

図 11 普通合板生産量及び
針葉樹合板割合の推移

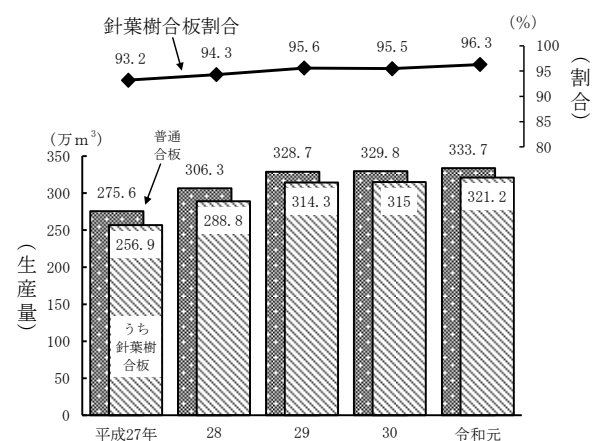


表 14 普通合板生産量

区 分	平成30年	令和元	対前年比	構成比
	千 m ³	千 m ³	%	%
普通合板生産量	3,298	3,337	101.2	100.0
6 mm未満	70	60	85.7	1.8
6 ～ 12	458	500	109.2	15.0
12 ～ 24	1,535	1,524	99.3	45.7
24mm以上	1,235	1,253	101.5	37.5
うち針葉樹合板	3,150	3,212	102.0	96.3
うち構造用合板	2,971	2,971	100.0	89.0

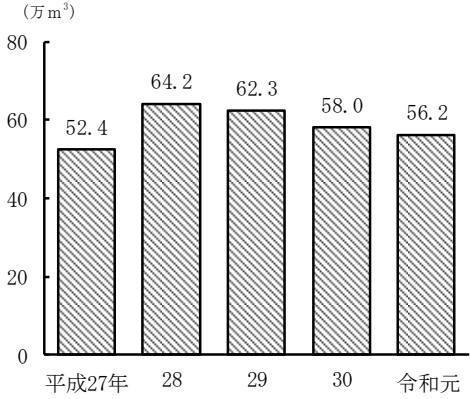
オ 特殊合板生産量

特殊合板生産量は 56 万 2 千 m^3 で、前年に比べ 1 万 8 千 m^3 (3.1%) 減少した (表 15、図 12)。

表 15 特殊合板生産量

区 分	平成30年	令和元	対前年比
	千 m^3	千 m^3	%
特殊合板生産量	580	562	96.9

図 12 特殊合板生産量の推移



カ L V L工場数

L V L工場数は 13 工場で、前年に比べ 2 工場 (18.2%) 増加した (表 16)。

表 16 L V L工場数 (各年 12 月 31 日現在)

区 分	平成30年	令和元	対前年比
	工場	工場	%
L V L工場	11	13	118.2

キ L V L生産量

L V L生産量は 18 万 8 千 m^3 で、前年に比べ 4 千 m^3 (2.2%) 増加した。

これを用途別にみると構造用が 8 万 8 千 m^3 で、前年に比べ 1 千 m^3 (1.1%) 減少したものの、その他が 10 万 m^3 で、前年に比べ 5 千 m^3 (5.3%) 増加した (表 17)。

表 17 L V L生産量

単位：千 m^3			
区 分	計	構造用	その他
平成30年	184	89	95
令和元	188	88	100
対前年比 (%)	102.2	98.9	105.3
構 成 比 (%)			
平成30年	100.0	48.4	51.6
令和元	100.0	46.8	53.2

(3) 木材チップ

ア 木材チップ工場数

木材チップ工場数は1,250工場で、前年に比べ53工場（4.1％）減少した。

これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は341工場で、前年に比べ3工場（0.9％）、「製材又は合単板工場等との兼営工場」は909工場で、50工場（5.2％）それぞれ減少した（表18）。

表 18 専門・兼営区分別木材チップ工場数
(各年12月31日現在)

単位：工場			
年次	計	木材チップ 専門工場	製材又は合単板 工場等との兼営工場
平成30年	1,303	344	959
令和元	1,250	341	909
対前年比（％）	95.9	99.1	94.8
構 成 比（％）			
平成30年	100.0	26.4	73.6
令和元	100.0	27.3	72.7

イ 木材チップ用素材入荷量

木材チップ用素材入荷量は426万3千m³で、前年に比べ32万3千m³（7.0％）減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、大層を占める国産材は426万3千m³で、前年に比べ32万2千m³（7.0％）、減少した（表19、図13）。

図 13 木材チップ用素材入荷量の推移

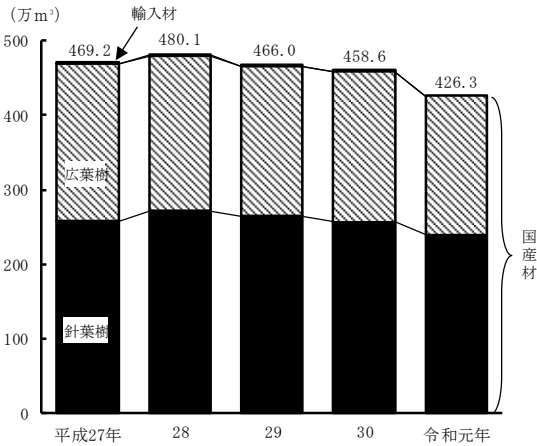


表 19 材種別木材チップ用素材入荷量

単位：千m ³										
年次	計	国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成30年	4,586	4,585	2,569	2,016	1	－	－	0	1	－
令和元	4,263	4,263	2,397	1,866	0	－	－	0	0	－
対前年比（％）	93.0	93.0	93.3	92.6	0.0	nc	nc	nc	0.0	nc
構 成 比（％）										
平成30年	100.0	100.0	56.0	44.0	0.0	－	－	0.0	0.0	－
令和元	100.0	100.0	56.2	43.8	0.0	－	－	0.0	0.0	－

ウ 木材チップ生産量

木材チップ生産量は526万6千tで、前年に比べ44万t（7.7%）減少した。

これを原材料別にみると、素材（原木）は232万8千tで、前年に比べ15万3千t（6.2%）、工場残材は191万4千tで、18万3千t（8.7%）、林地残材は5万7千tで、4万8千t（45.7%）、解体材・廃材は96万7千tで、5万6千t（5.5%）それぞれ減少した。

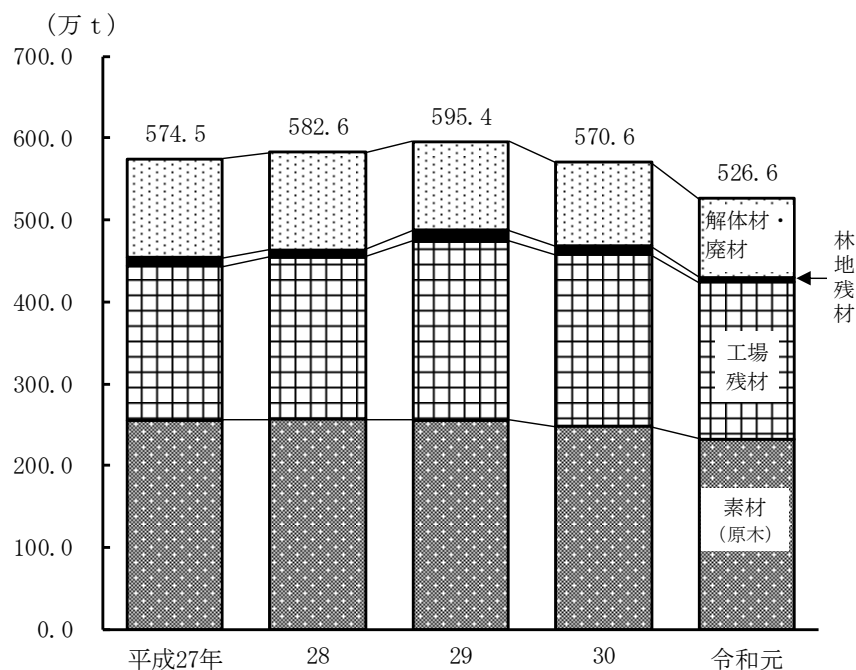
また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は311万1千tで、前年に比べ34万1千t（9.9%）、広葉樹は118万8千tで、4万3千t（3.5%）それぞれ減少した（表20、図14）。

表 20 木材チップ生産量

区 分	平成30年	令和元	対前年比	構成比
	千 t	千 t	%	%
木材チップ生産量	5,706	5,266	92.3	100.0
原材料別				
素材（原木）	2,481	2,328	93.8	44.2
工場残材	2,097	1,914	91.3	36.3
林地残材	105	57	54.3	1.1
解体材・廃材	1,023	967	94.5	18.4
針葉樹・広葉樹別				
針 葉 樹	3,452	3,111	90.1	-
広 葉 樹	1,231	1,188	96.5	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図 14 原材料別木材チップ生産量の推移



(4) 集成材及びＣＬＴ

ア 集成材及びＣＬＴ工場数

集成材工場数は162工場で、前年に比べ3工場（1.8％）減少した。

ＣＬＴ工場数は9工場で前年並みであった（表21）。

表21 集成材及びＣＬＴ工場数
（各年12月31日現在）

区 分	単位：工場	
	集成材工場	ＣＬＴ工場
平成30年	165	9
令和元	162	9
対前年比（％）	98.2	100.0

イ ラミナ消費量

ラミナ消費量は270万6千 m^3 で、前年に比べ5千 m^3 （0.2％）減少した。

これを用途別にみると集成材用が268万6千 m^3 で、前年に比べ5千 m^3 （0.2％）減少し、ＣＬＴ用が2万 m^3 となった（表22）。

表22 ラミナ消費量

区 分	計	単位：千 m^3	
		集成材用	ＣＬＴ用
平成30年	2,711	2,691	20
令和元	2,706	2,686	20
対前年比（％）	99.8	99.8	nc
構 成 比（％）			
平成30年	100.0	99.3	0.7
令和元	100.0	99.3	0.7

注：ＣＬＴ工場については、全国の全ての工場を調査対象工場として全数調査を実施しており、令和元年の調査結果は全数集計となっている。ただし、平成30年の調査では調査票の回収不能があり、全集計とはなっておらず、令和元年と平成30年の調査結果で集計した範囲が異なるため、数値の対前年比較は行わない。

ウ 集成材生産量

集成材生産量は192万 m^3 で、前年に比べ3千 m^3 （0.2％）減少した。

これを用途別にみると構造用が183万 m^3 で、前年に比べ2万2千 m^3 （1.2％）減少した（表23）。

表23 集成材生産量

単位：千m ³						
区 分	計	構造用				その他
		小計	大断面	中断面	小断面	
平成30年	1,923	1,852	27	784	1,041	71
令和元	1,920	1,830	15	819	996	90
対前年比（％）	99.8	98.8	55.6	104.5	95.7	126.8
構 成 比（％）						
平成30年	100.0	96.3	1.4	40.8	54.1	3.7
令和元	100.0	95.3	0.8	42.7	51.9	4.7

エ C L T生産量

C L T生産量は1万3千 m^3 となり、これを用途別にみると構造用が1万1千 m^3 となった(表24)。

表24 C L T生産量

単位：千 m^3			
区 分	計	構造用	その他
平成30年	14	13	1
令和元	13	11	2
対前年比(%)	nc	nc	nc
構 成 比(%)			
平成30年	100.0	92.9	7.1
令和元	100.0	84.6	15.4

注：C L T工場については、全国の全ての工場を調査対象工場として全数調査を実施しており、令和元年の調査結果は全数集計となっている。ただし、平成30年の調査では調査票の回収不能があり、全集計とはなっておらず、令和元年と平成30年の調査結果で集計した範囲が異なるため、数値の対前年比較は行わない。